

## 【ロシア】 2014-2016 年度連邦予算法の概要

海外立法情報課 小泉 悠

\* 2014-2016 年度のロシア連邦予算では、厳しい経済状況を背景として緊縮傾向が更に強まった。しかし国防費のみは例外的に高い伸びが続いている。また、従来の政策分野別支出から国家プログラム別支出へと支出方式が変更された。

### 1 予算の概要

2013 年 12 月 2 日、2013 年度連邦法第 349 号「2014 年度及び 2015-2016 年度の計画期間におけるロシア連邦予算に関する連邦法」（以下、「予算法」という）が成立した。2008 年以降、ロシアの国家予算は 3 か年計画へと移行し、翌年度だけでなく、それに続く 2 年間の予算も策定されるようになった。ただし、この 2 年間は「計画期間」であり、翌年度には経済実績を元に修正されて再び新たな 3 か年予算が策定される。

今回の予算法における各年度の予算及び主要な関連指標は表 1 のとおりである。2013 年度予算法では、各年度の赤字額を徐々に減少させ、2015 年度には 108 億ルーブルとする計画であったが、今回の予算法では後述する厳しい財政事情を反映し、当分の間、数千億ルーブル規模の赤字が続くと想定している。

表 1 2014-2016 年度の連邦予算概観（単位：ルーブル）

|           | 2013年(※) | 予算法の規定   |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
|           |          | 2014年度   | 2015年度   | 2016年度   |
| 歳入        | 12兆865億  | 13兆5705億 | 14兆5650億 | 15兆9057億 |
| 歳出        | 13兆3873億 | 13兆9601億 | 15兆3615億 | 16兆3922億 |
| 収支(△は赤字額) | △1兆3008億 | △3896億   | △7966億   | △4865億   |
| GDP       | 67兆5190億 | 73兆3150億 | 79兆6600億 | 86兆8370億 |
| 赤字額の対GDP比 | 0.5%     | 0.5%     | 不明(※※)   | 0.6%     |
| 想定インフレ率   | 5-6%     | 5%以下     | 4.5%以下   | 4.5%以下   |

出典：Федеральный закон от 02.12.2013 № 349-ФЗ "О федеральном бюджете на 2014 год и на плановый период 2015 и 2016 годов"

※ 2013 年の経済運営実績を基にした財務省の推定値

※※ 2015 年度の赤字額の対 GDP 比は予算法に記載が無い。

今回の予算法の最大の特徴は、プログラム別の予算支出が導入されたことである。従来の予算法は、社会保障、国防、経済政策等の政策分野ごとに予算が割り当てられ、各政策分野別予算がさらに各省庁へと配分される方式が採用されていた。しかし、2013 年の予算法典改正により、2014 年度以降の連邦予算では各政策分野内に具体的な政策の実現のための国家プログラムが設けられ、予算はこれらの国家プログラム単位で支出されることになった。各国家プログラムには詳細な使途や目標達成時期が規定されているため、予算のより効率的かつ確実な執行が期待される。また、各国家プログラムには更に詳細な目標や手段について規定した下位プログラムが複数策定される（一例として、保健政策分野には国家プログラム「保健の発展」が設けられ、その中に 8

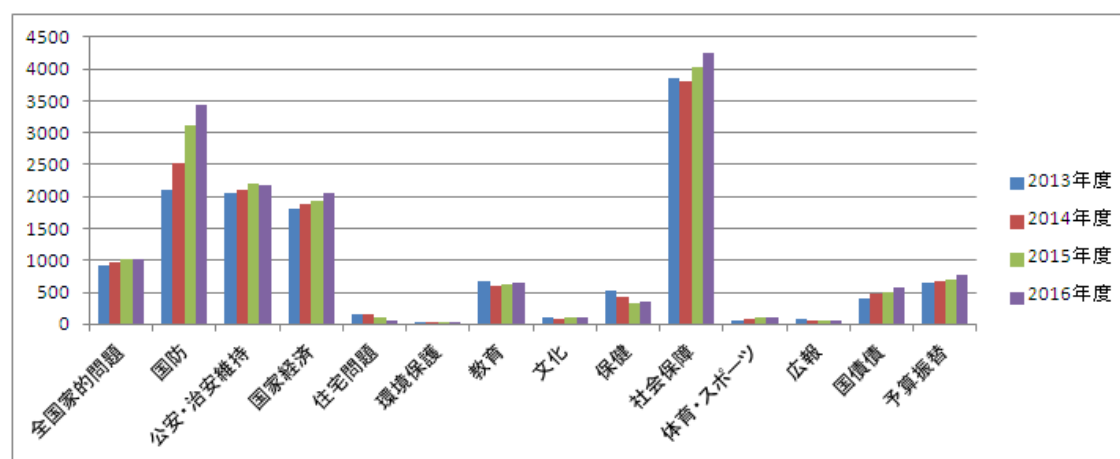
本の下位プログラムがある)。ただし、国防費については機密性が高いため、国家プログラム方式の導入は一部に限定されている。また、特定の国家プログラムについては、内容自体が機密として公表されないものもある。

## 2 2014-2016 年度予算の内訳

予算法には政策分野別の歳出内訳の記載がないが、財務省の予算註解によると、最大の支出項目は従来と同様、社会保障である。しかし、2014 年度は、2000 年のプーチン政権発足以来、初めて社会保障費が対前年度比で削減され、1.4%減少した。2015 年度以降には再び増額が予定されているが、伸び率は 5~6%に留まる。また、教育については、2014 年度は対前年比で 12.8%もの減少が予定されている。経済政策、保健、住宅、公安・治安維持その他の分野も、ほぼ横這い又は純減の予定である。このうち公安・治安維持予算は、これまで高い伸び率を示してきた分野であり、2013 年度には経済政策費を抜いて第三位の歳出項目となった。しかし、2014 年度以降の予算では伸び率が抑制され、2016 年には対前年度比で 0.8%の減少が予定されている。

世界的な経済危機が 2009 年にロシアに波及して以降、ロシアの GDP（国内総生産）成長率は鈍化傾向を示しており、2013 年には 1.4%という記録的な低成長に留まった。2014 年度予算の緊縮財政もこのような経済状態を反映したものと考えられる。ただし、歳出額第二位の国防費のみは、15~20%の高い伸び率を示しており、2015 年には初めて 3 兆ルーブルを超えた。これにより、従来は 2%台に抑制されてきた国防費の対 GDP 比率は 3%台後半に達する見込みである。当初、財務省は軍の装備近代化計画の延期による国防費の削減を要求していたが、最終的に国防費の増大を認めた。

図-1 2013-2016 年度の政策分野別支出の推移



出典：Основные направления бюджетной политики на 2014 год и плановый период 2015 и 2016 годов, < <http://government.ru/media/files/41d47b423d16db7f8be6.pdf>>

参考文献（インターネット情報は 2013 年 12 月 16 日現在である。）

- ・ Федеральный закон от 02.12.2013 № 349-ФЗ "О федеральном бюджете на 2014 год и на плановый период 2015 и 2016 годов"  
<[http://minfin.ru/common/upload/library/2013/12/main/FZ349-FZ\\_ot\\_021213.pdf](http://minfin.ru/common/upload/library/2013/12/main/FZ349-FZ_ot_021213.pdf)>